

# 集成材の力で、 福島県の森と未来の木造建築をつなぐ

藤寿産業(株) 取締役専務 相澤 貴宏



## ●創業と歩み～木造施設づくりの総合プロデュース企業を目指して～

弊社、藤寿産業株式会社は、1975年6月に福島県郡山市で設立し、昨年2025年に創業50周年を迎えました。集成材メーカーとして実績を重ね、現在では東日本屈指の規模を誇る集成材JAS認証工場を中核に、設計・製造・加工・施工までを一貫して担う「木造施設づくりの総合プロデュース企業」として歩みを進めて参りました。

私たちが掲げるのは、「丁寧なモノづくり」「誠実な顧客対応」「創意工夫」の三つのポリシーです。これまで全国で800棟を超える中・大規模木造建築に携わり、学校や道の駅、スポーツ施設から都市型中高層木造ビルまで多様な木造空間を創出してきました。



大断面集成材工場（郡山中央工業団地）

私たちが掲げるのは、「丁寧なモノづくり」「誠実な顧客対応」「創意工夫」の三つのポリシーです。これまで全国で800棟を超える中・大規模木造建築に携わり、学校や道の駅、スポーツ施設から都市型中高層木造ビルまで多様な木造空間を創出してきました。

## ●世界最大級への挑戦～大阪・関西万博「大屋根リング」～

近年、弊社の技術力の集大成といえるプロジェクトが、2025年開催の大阪・関西万博会場

のシンボルとなった、世界最大級の木造建築物「大屋根リング」です。円周約2kmに及ぶ巨大な木材フレームのうち、弊社は全体の約3分の1の製造・加工を担当しました。



大阪・関西万博「大屋根リング」

この歴史的建築物の梁には、福島県産スギが100%使用されています。伝統木造の貫構法による接合部を、最新鋭のCNC加工機を駆使して高精度な加工を施すことで、世界が注目する舞台を支えました。また、膨大な部材を確実に管理するため、ゼネコン社とともにBIMモデルを活用したリアルタイムの製造・輸送管理体制を構築し、DXによる高度な生産管理を実現しています。



CNC加工機による部材加工

## ●技術と設備～「不可能を可能にする」強固な製造基盤～

弊社の強みは、特殊かつ高度な要求に応える製造設備と技術力にあります。郡山中央工業団地の生産拠点に加え、浪江町において「福島イノベーション・コースト構想」に基づく戦略的拠点である福島高度集成材製造センター（FLAM）へ事業参画し、約9.4haの敷地において、原木から集成材までの一貫生産体制を確立しています。国内初導入となる「高周波プレス機」により、従来半日以上を要した圧縮工程を約10分に短縮することで、大幅な効率化と短納期生産を実現。主力設備である「二次接着メガプレス」は、断面1,250mm角という超大断面集成材の製造を可能にしています。

加えて6台の「CNC加工機」を駆使し、複雑な湾曲材（R材）や大判CLTの加工対応、耐火集成材、木・鋼ハイブリッド部材などの高付加価値製品を安定供給しています。



大型木質部材の生産・加工設備

## ●未来の木構造を拓く技術革新～GIR接合と耐火技術～

弊社は、建築士の皆様の自由な発想を支える技術的パートナーとして、新たな木構造の技術開発にも取り組んでいます。木質部材に鋼棒を挿入し、樹脂接着剤で固定するGIR（Glued In Rod）接合は、金物を内部に隠蔽することで、木材本来の美しさを活かしながら、高い意匠性と剛性を両立させています。木造ラーメンフレームにより、筋交いや壁がいらぬ自由度の高い空間が実現可能で、従来、RC造・鉄骨造で計画されていた施設の木造への置き換えが可能です。



GIR接合による木造ラーメンフレーム

また、業界団体や学識機関とともに、木造の耐火建築物を実現可能とする耐火集成材の開発を進めており、1時間、90分、2時間耐火の技術要件をクリアし、鋼材との木質ハイブリッド集成材（日集協）も含めて複数のパターンの製作を担っております。近年、県内でも民間の4階建て木造ビルや1万㎡を超える大型施設に耐火集成材が活用される等、高い評価をいただいています。

## ●これからの木造建築～持続可能な社会と林業再生への貢献～

私たちは木材を単なる建築資材ではなく、「循環資源」「環境保全資源」として捉えています。中大規模・都市木造の推進により、都市への炭素（二酸化炭素）ストック効果を拡大させ、「まさに森林をつくる」ことで、2050年カーボンニュートラルの実現に寄与することが私たちの使命です。

今後も福島県産材の需要拡大と林業再生を牽引し、建築士の皆様と共に「やすらぎ」と「心地よさ」のある木造空間を提供し続けてまいります。構造設計のご相談から特殊加工まで、木造化に関するあらゆる課題に対し、弊社の総合技術力をご活用いただければ幸いです。